

道路計画研究室

1. 活動の概要

道路計画研究室（旧交通研究室）はIBSの設立当初（1964）から創設された研究室であり、パーソントリップ調査をはじめとした都市圏の交通マスタープランの立案、マスタープラン策定に関する様々な技術の開発やその実践を進めています。近年は、今日的な経済社会情勢を反映した幅広い調査や研究に取り組んでいます。

主な調査研究テーマとしては、

- ・交通マスタープランの策定
- ・需要予測技術の研究開発
- ・道路交通センサスの全体計画とデータ活用
- ・移動体観測データ（プローブビークルデータ、プローブパーソンデータ）に関する研究
- ・交通計測の新技術に関する研究（ICカードデータ活用、ITVデータ活用、タグデータ活用、他）
- ・動的交通需要マネジメントに関する研究
- ・環境ITSを目指した環境計測技術に関する研究
- ・モビリティ・マネジメントに関する研究
- ・規制緩和後のバスサービスに関する研究
- ・BRT（Bus Rapid Transit）のあり方に関する研究
- ・交通シミュレーションを活用した都心部交通戦略評価や動的交通需要マネジメント評価の研究などです。

また、当研究室では国の審議会や委員会などを支援する活動を行っており、例えば、「道路交通センサスに関する検討会」や「将来交通量予測のあり方検討委員会」などの委員会活動の支援、業績評価報告書や達成度報告書の渋滞評価に関する支援を行っています。

スタッフは牧村室長をはじめとして、研究員11名、情報員2名の13名です。

2. その他研究活動の紹介

(1) 交通計画の基礎技術に関する普及啓蒙活動

交通計画の基礎的な技術について、研究室が主導

となり、セミナーや講習会などの活動を行っています。これまで、移動体観測技術に関する高度情報セミナーやIT交通データ報告会、エコ通勤推進のための職場MM技術講習会を開催しております。

(2) 学会などの活動

研究室では、土木学会や交通工学研究会などの委員会活動にも積極的に貢献しています。平成20年度には、

- ・土木計画学研究委員会（規制緩和後におけるバスサービスに関する研究小委員会、土木計画のための態度・行動変容小委員会、交通まちづくり小委員会）
- ・交通工学研究会（交通工学ハンドブック、自主研究委員会、広報委員会、EST委員会）
- ・JCOMM実行委員会

などに委員やメンバーとして参画しています。

また、国際標準化活動として、

- ・TC 204 WG 8（公共交通）
- ・TC 204 WG 16.3（プローブデータ）

等には専門家として参画しています。

(3) 出版活動

近年の出版物として研究室のメンバーが、

- ・建築設計資料集成－地域・都市Ⅱ設計データ編、日本建築学会
- ・道路交通需要予測の理論と適用 第Ⅰ編 利用者均衡配分の適用に向けて、土木学会
- ・「交通渋滞」徹底解剖、交通工学研究会発行
- ・交通まちづくり、交通工学研究会発行
- ・道路交通需要予測の理論と適用、第Ⅱ編
- ・交通工学ハンドブック 2008

等に参画しています。

3. おわりに

本研究室には、交通計画や交通工学に関する数多くの専門スタッフが在籍しておりますので、お気軽にお声をおかけ下さい。